

【連絡先】衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町453-7 TEL: 059-373-3933/FAX: 059-374-3088

東京／〒100-8981 千代田区永田町 2-2-1 衆議院第一議員会館 428 号室 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

○衆議院解散、総選挙

国会の召集が、24日。29日には、新総理の所信表明。10月の1,2,3日で代表質問という日程が決まったようです。ここで解散すれば、衆議院選挙の投票日は11月2日か9日となります。

マスコミは、連日、自民党の総裁選を報じています。政権を2回も投げ出して、引き続き自民党で政権を作ろうとすること自体、間違っています。ここで野党に譲って、選挙管理内閣を作り、即、解散総選挙によって国民が新しい内閣の選択をすること。これが民主主義の常道です。

私たちはマニフェストで、具体的な政策の優先順位と実現のための日程表を明らかにして選挙に臨みます。生活が第一。企業モラルの崩壊や格差社会の拡大などでもたらされた不安を解消する政策を中心に、若者もお年寄りも、人生設計が夢を持って描ける「安心と活力の溢れる社会」を実現することです。これを基にした具体的な政策議論が、今、白熱しています。

○しっかり受け止めた国民の声

ホンダの鈴鹿製作所や関連の八千代工業は、ハイブリッドや小型自動車の生産拠点として位置づけられ、増産体制に入ります。四日市の東芝工場の増設立地も確定して、1千億円近い新たな投資が行われようとしています。鈴鹿市内では、ベルシティーに加えて、カネボウの跡地に大和ハウスが一大ショッピングモールと住宅地を仕立てました。旭が丘などに続いて、住吉でも広大なショッピングセンターの建設が進んでいます。さらに、亀山では、開発業者が介在してシャープ亀山工場による一括借り上げを前提としたマンションやホテルの建設ラッシュが続いてきました。私の地元、四日市、鈴鹿、亀山は、他の地域と比べれば、ここ数年、産業基盤の充実と商業施設の拡大は著しく、目をみはるものがあります。

一方で、毎日、企業や家庭を訪問し、ミニ懇談

会などを持ちながら、市民の声に耳を傾けるとまた違った情景が出てきます。救急患者を乗せたまま一時間あまり、受け入れ病院を探し続けて15軒めでやっとたどり着いたときには、息が絶えていた。その悔しさ。「中川さん、我々は、どうすればいいのか。」と、私の目を見つめる消防職員。病院から産婦人科が撤退した中で、開業医も減り続けている。「私の体力も限界。地域の状況も限界に来ています。」と静かにつぶやく産婦人科医。お年寄りの方も、「もう家庭ではどうにもならないからと、施設入居の順番を待っているうち死んでしまう。250人の待機者なんて、許せません。」と語るヘルパーさん。しかし、彼ら介護士仲間も、「今の待遇では、結婚して子どもを育てることなど到底できません。」と職場を去っていかざるを得ない現実。「本当は、この仕事好きなんですよ。」と口をそろえて言います。

これまで地場産業の中核であった土木関連企業と不動産業界にも異変がおき始めています。「あそこの会社が危ないと聞いたが、本当か。」「融資の目途が立たないので、力になってくれないか。」と言う話が後を絶ちません。この先、資材物価が高止まりになり、景気がさらに悪化すると見られている中では、深刻さが増します。この地域では派遣やパートタイマーの比率が高い。景気の悪化には、一番先に影響を受けて、多くの人々が離職を余儀なくされる可能性があります。特に、外国人労働者が一番先に失業することになるとすれば、社会全体への影響も心配されます。

産業立地が成功し、ショッピングセンターは増えても、そのことが、人々の生活の安心感や豊かさ、そして夢を育む未来への活力に結びついていないことに憤りをおぼえます。これは、政策の失敗です。安心の社会制度を作らずに競争だけを加速させた結果です。私たちが言い続けてきた「生活が第一。」とは、この経済基盤を一人ひとりの生活の安心と未来への希望に結びつけること。人の「幸せ」は、そこから始まります。「いっぺん、私たち民主党にまかせて欲しい。」この選挙スローガンです。